校内研究を通して

研究推進委員会

研究主題「国語科を通した言語活動の充実」～考えを深める指導の工夫～

今年度は、３回の校内研究授業が行われました。１回目の６月の授業に続き、２回目は、１１月２７日（月）に、６年生の物語文「きつねの窓」の研究授業が行われました。

高学年分科会では、「ICT 機器（ロイロノート）を活用し、言語活動を深めるための指導の工夫」を重点に研究を進めてきました。ロイロノートの活用に関しては、手書きのノートを活用したりロイロノートを活用したりと、児童が自分に適した方法で学ぶことができるように工夫をしました。ノートを使い分けることにより、書くことに時間がかかってしまったり、うまく文章で表現できなかったりする児童の不安を軽減できるようにしました。

児童は、学習の終末に「窓カード」を作ることを知り、文章を読み取っていきました。登場人物のきつねやぼくが、大切だけど今はもう会えない、触れることのできない家族や家、好きな子などの存在について読み進めながら、自分たちにとっての大切な存在について考えてカードにまとめることができました。

窓カードを作るために物語文を学ぶという必然性を児童が意識し、見通しをもつことで主体的に学習を進めることができました。また、めあてを達成するために学ぶ手段を児童自身が選択することで、意欲的に安心して学ぶ姿が見られました。

３回目は、１２月２２日（金）に、たんぽぽ学級で説明文「めだか」の研究授業が行われました。

たんぽぽ学級分科会では、「言葉を使って表現する力を身につけるための指導の工夫」を重点に研究を進めてきました。学級でめだかを飼育し、めだかに関する基礎的な知識を身に付け、共通の土台ができた上で学習に進めるようにしました。実物に触れ、めだかを身近な物にすることで、学習意欲を高め、主体的に学習に参加することができました。

段落の中心文を探すためのキーワードに着目し、めだかがどのように敵から身を守っているのかを読み取りました。挿絵を抜いた教材文を用意し、本文の内容と照らし合わせて挿絵を並べ替える活動により、文章中の言葉に着目して正しく並べることができました。読み取った内容をより深く理解するために、ペープサートを活用しました。「さっとにげる」や「目うつり」、「水をにごらせる」など読み取った内容を視覚化することで、叙述と結びつけ理解できるようにしました。別の言葉に言い換えたり、動作化したりする児童もいました。言葉を正しく理解している姿が見られました。

教師の発問や説明、指示が精選され、ゆっくり丁寧に学習が進められ、どの児童も安心して授業に参加することができていました。私たち教員の日頃の指導や話し方を振り返る機会にもなりました。